＜研究ノート＞

18 世紀のフェーダ教区における開放耕地制

佐　藤　睦　朗

1．はじめに

東中部スウェーデンのウステルユートランド（Östergötland）地方中部に位置するフェーダ（Skeda）教区では，すでに別稿で明らかにしたように，18 世紀後半にエンクロージャーである土地整理（jordskifte）が本格的に開始される直前の段階で，教区北西部の平野部とそれ以外の中間地帯（平野部と森林地帯との間に位置する領域）との間で村落形態に大きな違いがみられ，平野部では「太陽分割制（太陽制地割）」（solskifte）と呼ばれる規則的な形状の開放耕地制の村であったのに対して，中間地帯では不規則な形状ないしは未発達の開放耕地制の村が一般的であった[1]。本稿の課題は，その補論として，そこでは十分に検討することができなかった，18 世紀前半から半ばにかけての同教区での開放耕地制の状況について考察することにある。

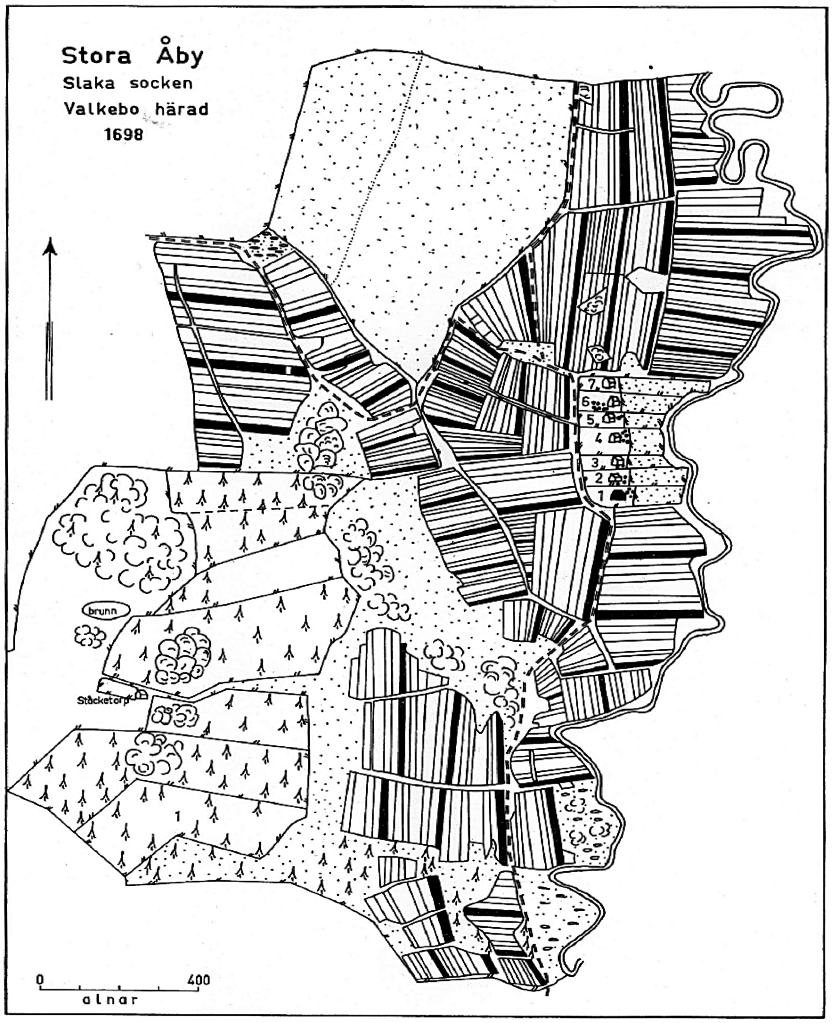
使用する史料は，「歴史地図」（Historiska kartor）と呼ばれる，測地庁（Lantmäteriet）ホームページに公開されている電子化された地図と文書である。これらは，かつては測地局（Lantmäteriverket：測地庁の前身）の史料館で公開されていたものであり，ウステルユートランド地方の村落については，リンシューピング（Linköping）の事務局で閲覧が可能であった。だが，2008 年頃から史料館や事務局などでの史料本体の閲覧は徐々に停止され，スキャナで読み取られたデジタル史料のウェブでの一般公開方式に移行した[2]。この史料の電子化により，以前は時間的制約から困難であった地図史料の体系的な調査が，現地の史料館に足を運ばなくても日本に居ながらいつでも行うことが可能となった。今回，18 世紀半ば以前のフェーダ教区の村落図調査を網羅的に行うことができた背景には，こうした史料アクセス条件の大幅な改善がある。

本稿では，フェーダ教区における史料状況の特徴を明らかにするために，同教区の北側に隣接するスラーカ（Slaka）教区の村についても一部調査対象とする。スラーカ教区は全体で平野部に属しており，農業景観としてはフェーダ教区北西部との類似性がみられた。以下，まずスラーカ教区の村落図の検討を行ったうえで，フェーダ教区に関する分析に入ることにしたい。

2．スラーカ教区の村落図：1688～1710 年

図 1 は，スラーカ教区南部にあり，フェーダ教区に近い場所に位置するストーラ・オービュ

図1　ストーラ・オービュ村（1698年）

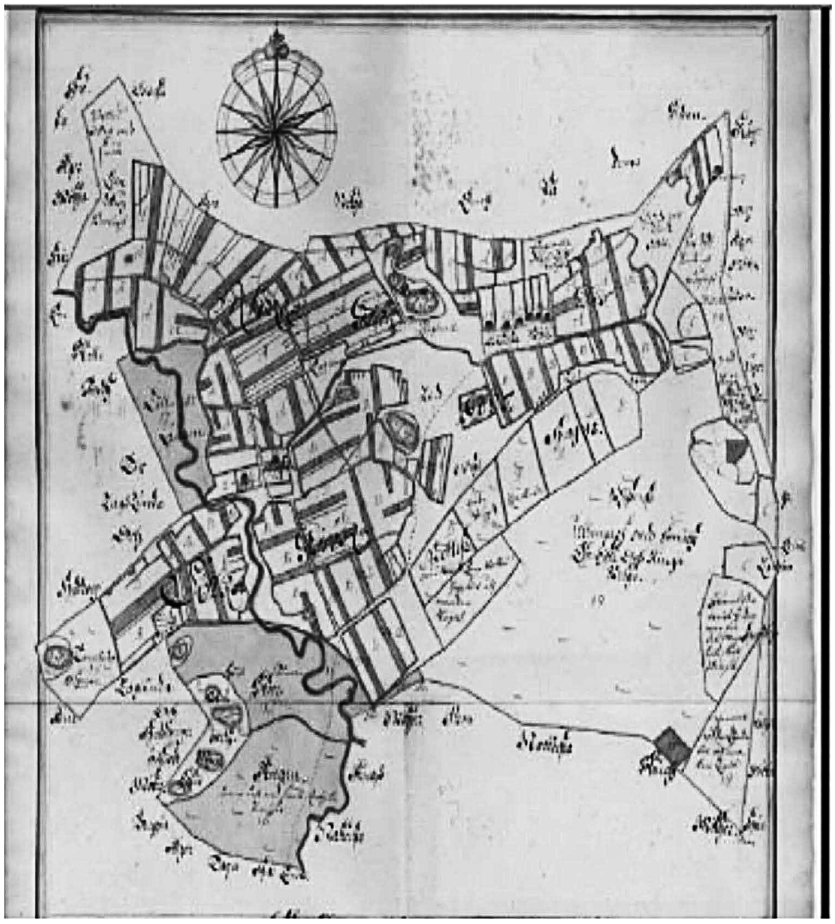


典拠：S. Helmfrid, „Östergötaland „Västanstång". Studien über die ältere Agrarlandschaft und ihre Genese", *Geografiska Annaler* vol.45（1962）, S.195.

（Stora Åby）村の1698年の村落図である。この図は，スウェーデン地理学の大家であるスタファン・ヘルムフリード（Staffan Helmfrid）のドイツ語で書かれた博士論文の中で扱われ，典型的な太陽分割制村落の1つとして有名になったものである[3]。この図からは，1農場の地条が村全体で60か所に規則性をもって分散しており，規則的な形状の開放耕地制が17世紀末までに定着していたことを窺い知ることができる。

スラーカ教区の場合，このストーラ・オービュ村を含めて，1680年から1710年の間に10の村で地図が残されている。このうち，地条の形状が記載されていない3村落を除くと，7村全てで規則的な形状の開放耕地制の記録がみられる[4]。図2は，このうちの1つのストーラ・ゴール

図 2　ストーラ・ゴールスタッド村（1692 年）



典 拠：Lantmäteristyrelsens arkiv（以 下，LMSA と 略 記），Slaka socken Gålstad stora nr 1-6（Geometrisk ägoavmätning, 1692），Historiska kartor（以下，HK と略記）.

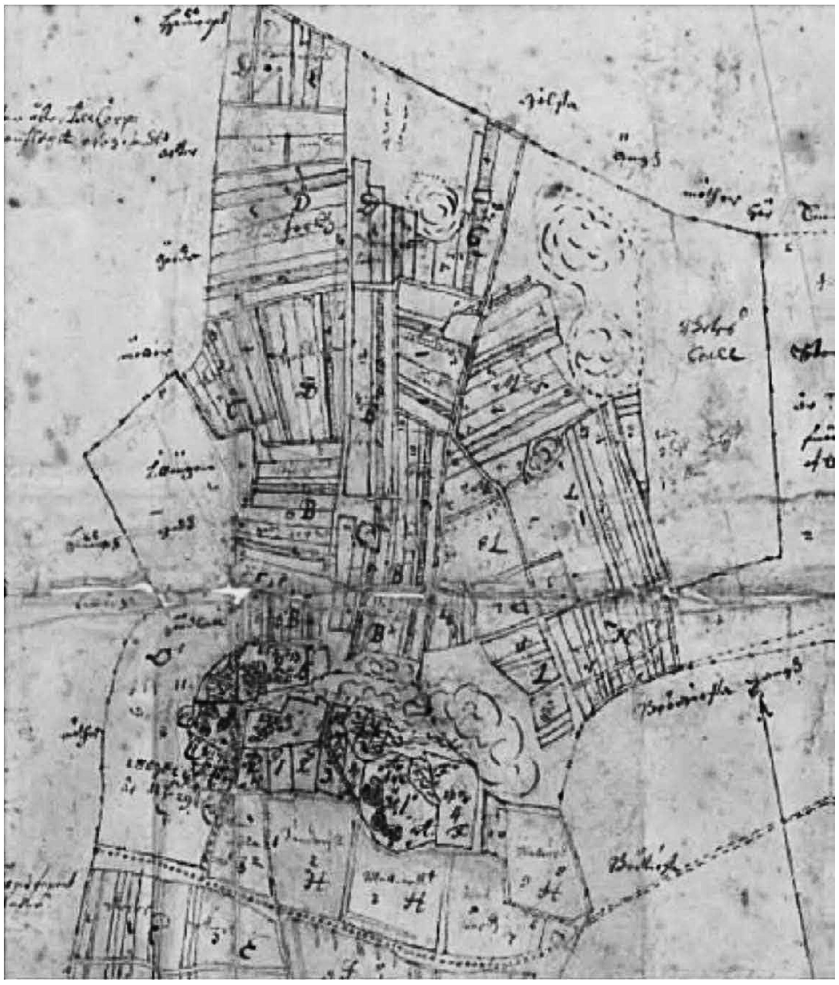
スタッド（Stora Gålstad）村の地図（1692 年）であるが，この図においても 1 つの農場が村落内で保有している地条が記載されており，17 世紀末までには太陽分割制村落となっていたことがわかる。同様に，ベルガ（Berga）村の 1699 年の耕地図（図 3）からも，17 世紀末に規則的な形状の開放耕地制が定着していたことがみてとれる。

このようにスラーカ教区については，18 世紀初め以前に作成された村落図は，ほぼ全てが太陽分割制村落のものであった。こうしたスラーカ教区での史料状況をふまえたうえで，次にフェーダ教区の村落図の分析に移ることにしよう。

3．フェーダ教区の村落図からの開放耕地制の分析：1685～1797 年

上述のスラーカ教区とは異なり，フェーダ教区では，17 世紀末から 18 世紀初めにかけての太

図3　ベルガ村（1699年）



典拠：Lantmäterimyndigheternas arkiv, 05-SLA-10（Arealavmätning, 1699）, HK.

陽分割制村落の地図はほとんど残されていない。例外的に，1688年のトルベルガ（Torrberga）村（図4）と1689年のミュールビュ（Mörby）村（図5）の村落図のなかに，1農場の地条の記載があることから，規則的な形状の開放耕地制の存在をかろうじて窺い知ることができる。だが，それ以外は地条が明示されていないか，あるいは図6のアーラルプ（Alarp）村（1704年）や図7のスメッドストルプ（Smedstorp）村（1704年）のような，小規模な耕地が存在するだけの原初的な村落の地図である[5]。

その一方で，18世紀後半になると，フェーダ教区についても平野部の村落を中心に，図8の1772年のオールンダ（Orlunda）村と図9の1775年のドゥーメストルプ（Dömestorp）村の両地図が示すとおり，太陽分割制村落の存在が確認される。それにもかかわらず，この2村落を含めて，18世紀初頭まで太陽分割制に関する記録がほとんどないのである。これに対して，ス

図 4　トルベルガ村（1688 年）

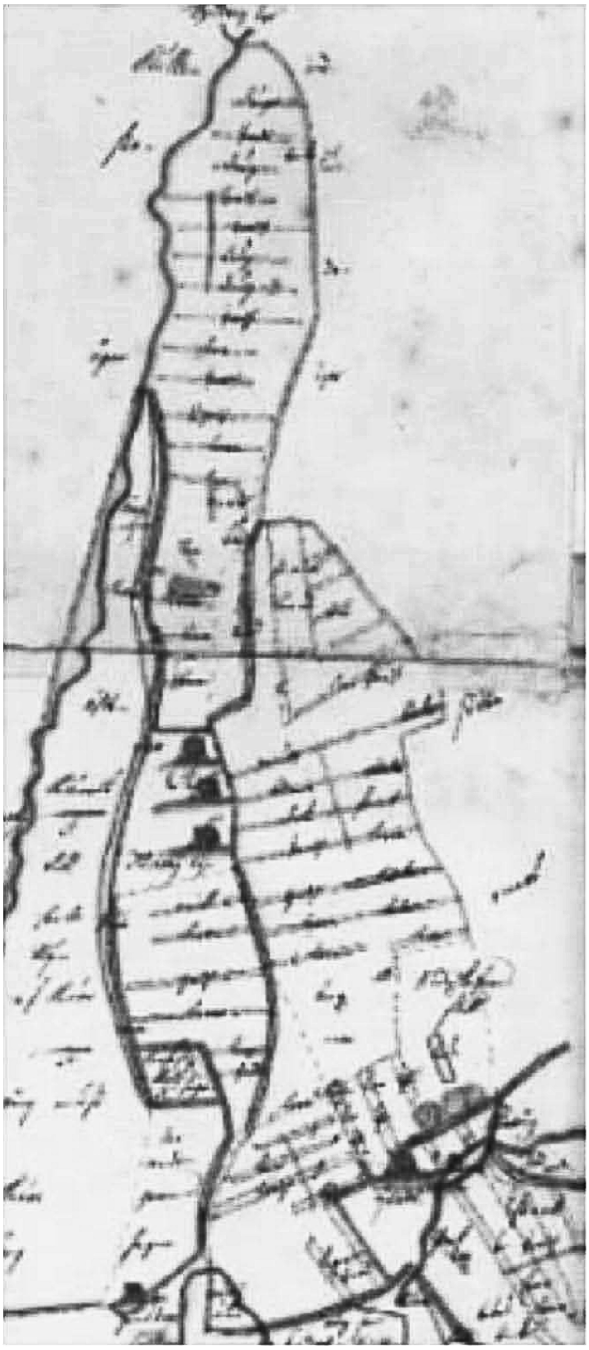
典拠： LMSA, Skeda socken Torrberga nr 1-6（Geometrisk avmätning 1688), HK.

ラーカ教区の場合は，18 世紀後半に太陽分割制であった村落は，18 世紀半ば以前にも村落図が残されていることが一般的である。

このようなスラーカ教区とは大きく異なる史料状況から，フェーダ教区では，18 世紀に入った段階ではまだ規則的な形状の開放耕地制が定着していなかった，と考えるのが妥当ではないだろうか。つまり，フェーダ教区の場合，上述のトルベルガ村とミュールビュ村以外には，太陽分割制は 18 世紀前半から半ばにかけて平野部の村落を中心に普及した，と解釈しうるのではないか。

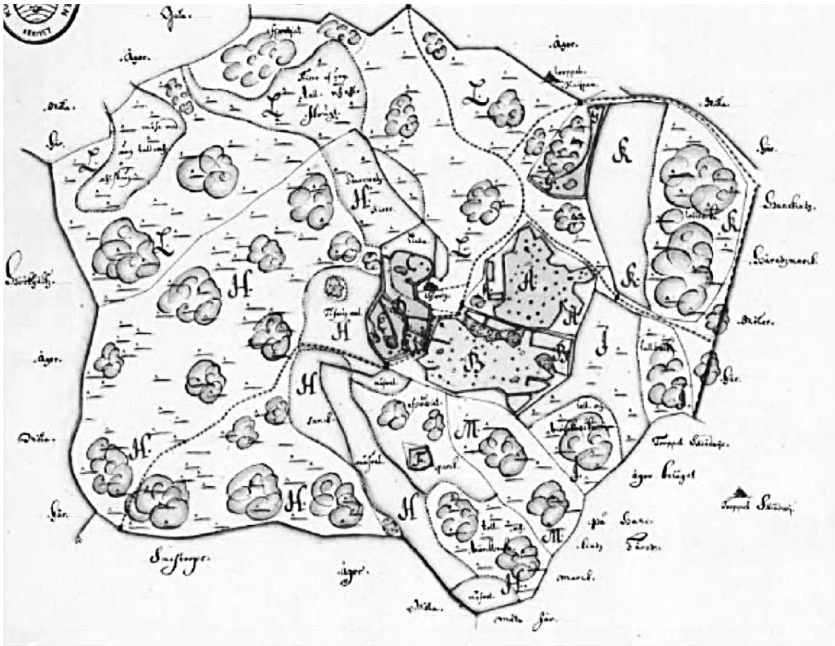
それでは，太陽分割制が定着する以前の平野部の村落では，どのような耕地形態であったのであろうか。この点については，1719 年のヴァリスエッテル（Vargsäter）村の耕地図（図 10）と 1768 年のシーロルプ（Syrorp）村の土地整理用の地図（図 11）から，ある程度の類推が可能である。いずれの図も，多様な形態と大きさの地条が混在しており，規則的な形状の開放耕地制への過渡期の状況にあったことを示している[6]。このような多様な形態の地条が混在した開放耕地

図5　ミュールビュ村（1689年）



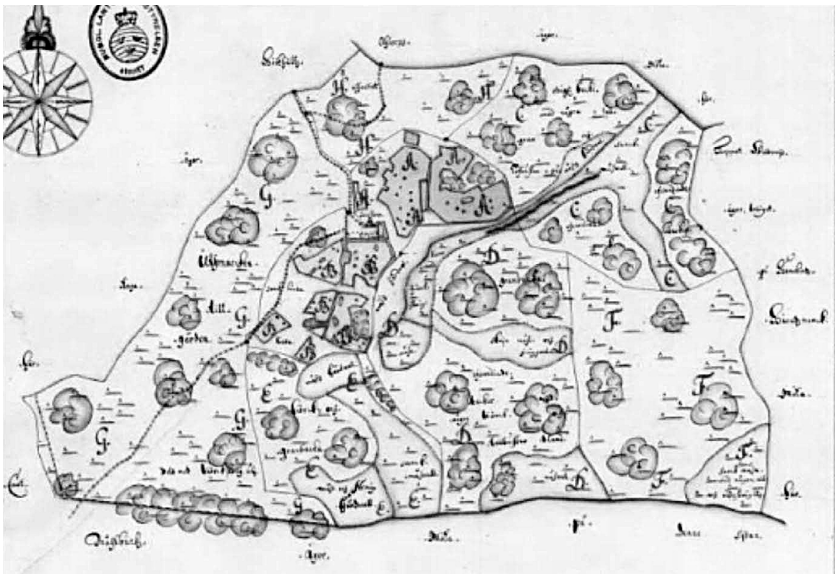
典拠： LMSA, Skeda socken Mörby nr 1-2（Redovisning 1689）, HK.

図 6　アーラルプ村（1704 年）



典拠： LMSA, Skeda socken Alarp nr 1（Ägomätning 1704）, HK.

図 7　スメッドストルプ村（1704 年）



典拠： LMSA, Skeda socken Smedstorp nr 1（Ägomätning 1704）, HK.

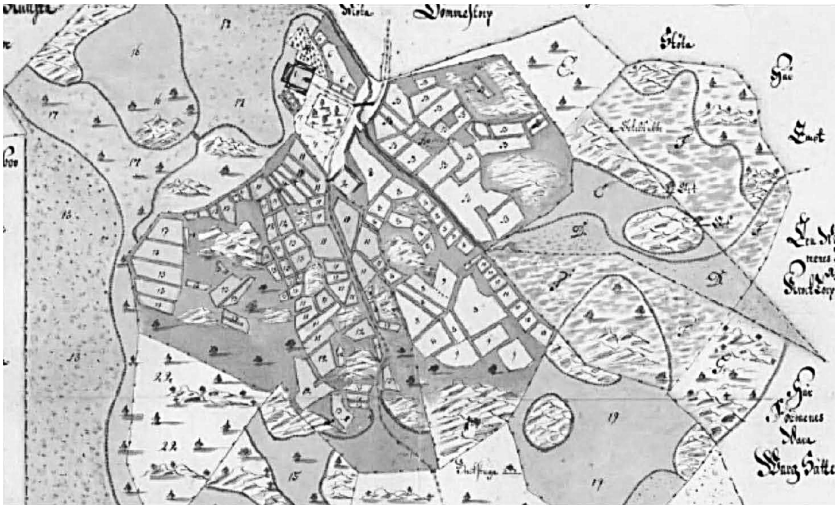
図８　オールンダ村（1772年：村の北側のみ）

典拠：LMSA, Skeda socken Orlunda nr 1-7（Storskifte 1772）, HK.

図９　ドゥーメストルプ村（1775年：村の北側のみ）

典拠： LMSA, Skeda socken Dömestorp nr 1-3（Storskifte 1775）, HK.

図 10　ヴァリスエッテル村（1719 年）

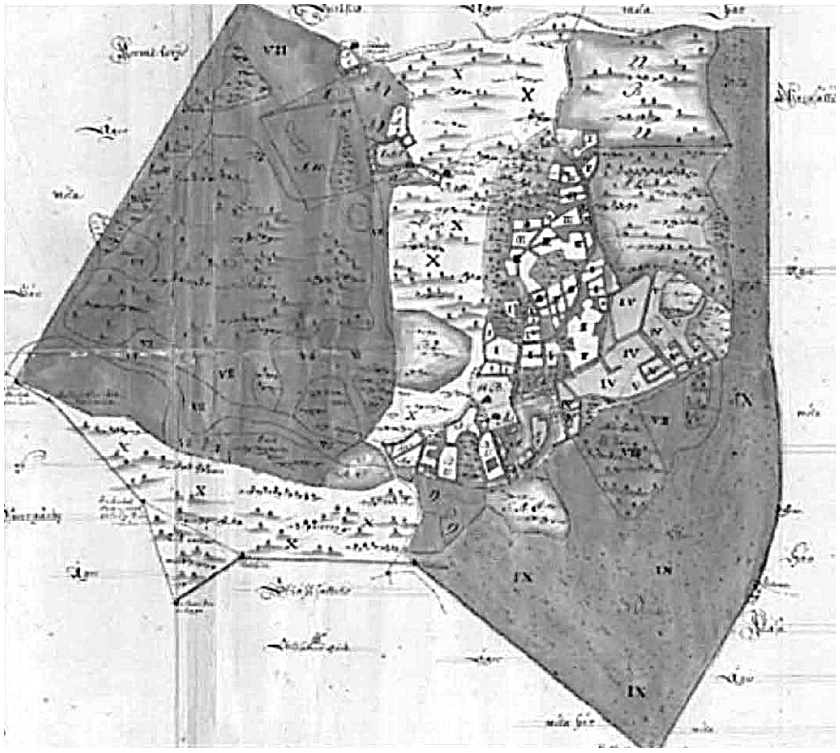


典拠： LMSA, Skeda socken Vargsäter nr 1（Geometrisk avmätning 1719）, HK.

図 11　シーロルプ村（1768 年）

典拠： LMSA, Skeda socken Syrorp nr 1（Storskifte 1768）, HK.

図12　シークテスボ村（1723年と1785年）
(a) 1723年



典拠： LMSA, Skeda socken Siktesbo nr 1-3（Geometrisk avmätning 1723）, HK.

制の段階を，太陽分割制が完全に定着する以前のオールンダ村やドゥーメストルプ村も一時期経たと考えらえる。

なお，中間地帯の村落については，別稿で検討したように，18世紀末以降も原初的な村落形態であったケースがみられた[7]。だがその一方で，18世紀初め以降の開墾の進行とともに開放耕地制が発展した事例も存在したのである。図12は，シークテスボ（Siktesbo, Sicktesbo）村の1723年（a図）と1785年（b図）の村落図を比較したものであるが，ここからは1723年の段階では多様な形態の地条や耕地が存在していたのに対して，1785年には規則的な形状の開放耕地制となっていることがわかる。このようにフェーダ教区では，平野部と同様に中間地帯の一部の村落においても，18世紀を通じて開放耕地制の発達がみられたのである[8]。

4．おわりに

本稿では，17世紀末から18世紀初めにかけてのスラーカ教区とフェーダ教区の間での史料状況の違いを明らかにしたうえで，18世紀のフェーダ教区における村落図を検討した。それにより，18世紀後半にフェーダ教区の平野部で定着していた太陽分割制は，18世紀前半から半ばに

(b) 1785 年

典拠：LMSA, Skeda socken Siktesbo nr 1-3（Geometrisk avmätning 1785）, HK.

かけて形成された比較的新しい地割形態であるとみられることが明らかになった。また，18 世紀初めの段階で開墾が進んでおらず，原初的な村落が中心であった中間地帯においても，村によっては 18 世紀を通じて開放耕地制の発展がみられたことを指摘した。

こうした開放耕地制の状況から，フェーダ教区の村落は 18 世紀初めから半ばにかけて，農法や耕地制度が流動的であった「未成熟な農業景観」の様相を呈していたといえよう。この「未成熟な農業景観」という概念は，元来はスウェーデン東部の太陽分割制地帯での農業景観との対比の中で，18 世紀以降のスウェーデン西部の農村において共同体規制が弱かったことや発展可能性が残されていたことを示すものである[9]が，太陽分割制地帯の南端に位置するフェーダ教区における，18 世紀前半から半ばにかけての農業景観を示す言葉としても適切であると思われる。

注

1　拙稿「東中部スウェーデンにおける農業景観と開墾―フェーダ教区を対象とした一考察：1769～1874 年―」『（神奈川大学）商経論叢』第 37 巻第 2 号（2001 年），175–184 頁；同「18–19 世紀のフェーダ教区における農業景観」『経済貿易研究』第 40 号（2014 年），93–96 頁。なお，スウェーデンにおける土地整理（エンクロージャー）については，拙稿「18–19 世紀のスウェーデンにおける農業革命」『経済

貿易研究』第37号（2011年），93–101頁。

2 「歴史地図」については，拙稿「スウェーデン農村史・農業史研究における電子化史料」『北欧史研究』第35号（2018年），146–147頁。

3 Staffan Helmfrid, „Östergötaland „Västanstång”. Studien über die ältere Agrarlandschaft und ihre Genese”, *Geografiska Annaler* vol.45（1962）, S.195–197. この図の基となった史料の「歴史地図」での番号は，以下の通り。Lantmäteristyrelsens arkiv（以下，LMSAと略記）, Slaka socken Åby nr 1–12（Geometrisk avmätning 1698）, Historiska kartor（以下，HKと略記）.

4 図1～3以外の4村落の史料番号は，以下の通り。LMSA, Slaka socken Hallshöga nr 1–4（Geometrisk navmätning 1688）, Haddorp nr 1（Geometrisk avmätning 1697）, Åby nr 1–12（Geometrisk avmätning 1704）, Aska nr 1–5（Geometrisk avmätning 1706）, HK. このうち，リッラ・オービュ村（Lilla Åby）村の1704年史料には地条の記載がみられないものの，ほぼ同時期に作成されたとみられる日付不明の地図が別途残されており，そこには1農場の地条の位置が明記されていることから，太陽分割制村落であったことが確認される。なお，地条の記載のない3村落の史料番号は，以下の通り。LMSA, Slaka socken Prästgård nr 1（Geometrisk avmätning 1699），Kåparp nr 1（Geometrisk avmätning 1704），Åsdymlingen（Geometrisk avmätning 1708）, HK.

5 地条の記載のない4村落の史料番号は，以下の通り。LMSA, Skeda socken Hässelkulla nr 1–2（Redovisning 1689）, Ånväga nr 1–4（Geometrisk avmätning 1697）, Prästgården nr 1（Geometrisk avmätning 1698）, Håckerstad nr 1–7（Geometrisk avmätning 1710）, HK.また，図6～7以外の原初的な4村落の史料番号は，以下の通り。LMSA, Skeda socken Sundsholm nr 1（Geometrisk avmätning 1688）, Tolebo nr 1（Geometrisk avmätning 1699）, Skälsäter（Ägomätning 1704）, Persbo nr 1–3（Geometrisk avmätning 1708）, HK.

6 シーロルプ村（図11）での正方形に近い地条形態については，1768年よりも前に独自の土地整理が行われために存在した可能性も考えられるが，少なくとも史料の中には土地整理が事前に行われたという記載は見当たらないことから，太陽分割制に移行する過渡期の村落形態であると判断した。

7 拙稿「フェーダ教区における原初村落―1789～1843年―」『経済貿易研究』第28号（2002年），95–107頁。

8 同様の事例は，アーラルプ村やパースボ（Persbo）村などでもみられた。LMSA, Skeda socken Alarp nr 1（Geometrisk avmätning 1797）, Persbo nr 1–3（Storskifte 1768）, HK.

9 「未成熟な農業景観」については，拙稿「18世紀前半の東中部スウェーデンにおける農業景観」『（神奈川大学）商経論叢』第45巻第4号（2010年），312頁を参照されたい。